

令和5年度大阪府福祉基金地域福祉振興助成金地域福祉推進助成「事業評価」(事業概要)

団体名	社会福祉法人茨木市社会福祉協議会	総合評価 S	評価基準(総合評価) S (非常に高く評価できるもの) A (高く評価できるもの) B (一定の水準にあるが一部課題のあるもの) C (一定の水準にあるがかなり課題のあるもの) D (全般的に多く課題のあるもの)
事業名	IBARAKI コミュニティ・カーシェアリング		
実施期間	令和 5 年 4 月 1 日 ~ 令和 6 年 3 月 31 日		
助成(実績)額	1,607,327 円		

事業概要	事業実績	事業を実施したことによる成果
令和 3、4 年度大阪府福祉基金地域福祉振興助成金地域福祉推進助成その他事業「ウィズコロナ、ポストコロナに対応した地域モデルの開発」を活用し、社会福祉協議会で市内北部に小回りの利く4人乗り軽自動車(寄贈車)、市街地に8人乗りワゴン車を配置し、各地区福祉委員会同士で車輛をシェアし、各福祉委員会で車両を活用したオリジナリティあふれる活動を展開できる仕組みを開発した。 この仕組みをさらに活用・発展させることで、専門職や各団体、企業と地域住民が協働する仕組み(包括的支援体制)を構築し、新たな地域課題を解決できる体制を創出する。	(全体) 4月:全戸配布の本協議会広報誌の記事にて事業 PR 6月:参画会議の実施(第1回)、交通安全講習会実施 8月:全戸配布の本協議会広報誌の記事にて事業 PR 12月:全戸配布の本協議会広報誌の記事にて事業 PR 2月:全戸配布の本協議会会員募集のチラシにて事業 PR 3月:G10 コミカーミニサミット開催(第2回参画会議) 地区福祉委員長連絡協議会でミニサミットの報告と活動状況の共有 ※12月～1月に運転適性検査を実施 ※随時社協 HP、SNS にて本事業の情報発信 (地区福祉委員会) 【玉櫛地区】 時期:5月～11月(計6回実施) 場所:児童遊園 内容:移動型出前サロン(参加者 108 名:スタッフ等除く) 対象:近隣住民どなたでも 【穂積地区】 時期:4月～3月(計 11 回) 場所:穂積地区内→穂積コミュニティセンター 内容:福祉委員会活動場所までの移動手段(24 名:スタッフ等除く) 対象:福祉委員会食事会参加希望者 【豊川地区】 時期:4月～3月(計 69 回) 場所:豊川地区内→アル・プラザ茨木(スーパーマーケット) 豊川地区すくくつ子まつり、豊川地区やよいまつり 内容:お買い物支援、移動支援(336 名:スタッフ等除く) 対象:豊川地区にお住まいの方	(全体) ・本事業を展開するにあたり、地域住民一人ひとりの『暮らし』を「みんなで考えるしくみ」づくりを目指し、その結果、全ての地区ではありませんが、本事業を実施したことで、地区福祉委員会と地域包括支援センター、CSW、社協が協働する体制を構築することができました。 事例として、地区福祉委員会や地域包括支援センター、CSW が協働し、買い物支援や移動支援を実施する中で、新規の利用者に対し専門職が面談(アセスメント)を行い、必要に応じて買い物支援や移動支援といった断続的な支援だけでなく、その後の暮らしを支えるサービス調整や見守り訪問などについても、地区福祉委員や民生委員と話し合い、多面的(制度横断的)な支援を展開できました。 ・本事業を展開する過程で、<u>①みんなで必ず話し合う ②互いの強みと役割を考える ③ルールを決める ④みんなで振り返る</u> を大切にすることで、<u>包括的支援体制の土壌・土台づくりを行なうことができました。</u> ・こうした仕組みを構築したことで、専門職だけでは把握できなかった地域に埋もれているニーズの発見や対象者の把握ができるようになり、また地域住民自身もそうした重要な役割を担ってることの自覚と自負を持つことができ、地域全体の地域福祉力が向上する効果がありました。 ・車輛の運行スケジュール管理はカレンダー共有アプリを活用し、スマホや PC で参画地区福祉委員会および専門職(地域包括支援センター・CSW)、社協間で確認できるようにしたことで、これまで以上に効率よくかつ視覚的に実施内容を把握・共有できるようになりました。 (買い物支援・移動支援) ・単なる買い物や移動の手段に終わらず、日常生活圏域内で住んでいてもなかなか互いに顔を合わすことがなかった地域住民が、本事業をきっかけに再会したり、定期的に会うことができ、移動中の車内で様々な話題で盛り上がっています。 ・本事業を実施することで、物理的な距離や時間的課題を解消し、地域住民にとって貴重なコミュニケーションの場を創り出すことができました。また、外出意欲が出るなど介護予防として重要な役割を果たしています。 ・地域活動の担い手発掘アプローチの一つとして「運転ボランティア募集」は非常に有効であり、またボランティア側(特にシニア層)の役割・生きがいづくりにもなっています。 ・特に市内北部では高齢化が進行し、また路線バスも廃止となるなど買い物支援や移動支援について喫緊の課題となっています。そうした中、本事業の車が走ってるのを見かけたり、広報誌で目にすることで地域住民の関心が高まり、地域住民自ら「自分達でなんとかできないか」という気運が高まり、問い合わせも多くなりました。 ・地域住民からの反響も大きく、すでに令和6年度 4 月より新たに石河地区内の安元地区でも事業開始の予定です。



コミカーサミットの様子

事業概要	事業実績	事業を実施したことによる成果
	【石河地区】 時期:4 月～3 月(計 16 回) 場所:石河地区→病院、スーパーマーケット、理美容室等 内容:移動支援(14 名:スタッフ等除く) 対象:石河地区にお住まいの方 ※これまで石河地区内大岩地区を中心に実施してきたが、地域住民からの要望により安元地区でも次年度から実施予定。地域住民と検討会議を実施。 【見山地区】 時期:4 月～3 月(計 19 回) 場所:見山地区内→病院、見山地区内バス路線 内容:移動支援(33 名:スタッフ等除く) 対象:見山地区にお住まいの方 ・参画福祉委員会および専門職、社協間で事業内容や運営方法について話し合う機会を設け、事業実施の効果や課題を共有し、さらなる事業発展について協議をしました。(参画会議の開催) ・茨木市交通政策課と適宜情報交換、意見交換の時間を設けることで、交通政策の視点から本事業の意義や役割の重要性を共有しています。(必要に応じて随時実施) ・各福祉委員会において円滑な活動ができるよう、地域担当職員(コミュニティ・ワーカー)を配置し伴走支援を行いました。	(出前サロン) ・『自宅から会場までは遠くてサロンに参加できない』といった課題を解消し、さらに既存の福祉委員会活動だけでは関わりのなかった地域住民(若年層やひとり親家庭等)と関係を築くことができました。 ・出前サロンを継続的に実施したことで、本事業開始当初に初めて参加してくれた4歳の女の子が今では7歳になり、この間ずっと出前サロンに参加してくれています。 幼い頃から地域住民と触れ合い、このように地域活動に自然と参加することは「福祉教育」としても非常に意義のあることだと考えます。 これらの効果については、厚労省の「地域力強化検討委員会」の中間とりまとめにも『幼少期から地域福祉に関心をもつ、地域活動への参加を通じて人間形成を図っていく「福祉教育」が必要である』と書かれています。 (交通政策的意義) ・本事業と地域住民と本協議会とで実践したことにより、地域住民から行政に「コミュニティ・カーシェアリングを行政施策に位置付け、戦略的に進めてほしい」との要望がありました。 ・特に、安威川ダム建設に伴う市内北部の地域活性化の中でも、交通問題としても話題に上がっていますが、本事業の「買い物支援」や「移動支援」は地域住民の暮らしに密着したもので、改めて地域住民から注目をされるようになりました。そのため茨木市からは、交通施策と福祉施策の観点からも重要な取り組みであるとの見解を得れるようになりました。